

# 同窓会会報

高知県立大学看護学部

第9号

平成26年9月20日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



同窓会総会(城西館にて)

## ごあいさつ

## 同窓会会長 梶原和歌

今年の夏は広島集中豪雨をはじめ多くの方が犠牲に合わせ心からお見舞い申し上げます。同窓生におかれましても地域や職場はどのような様子だったでしょうか。高知市は8月3日、市内全16万2088世帯、33万7508人に避難勧告が発令され緊迫状態に陥りましたが、人命は無事だったようで日ごろの備えと情報共有・連携の重要性を改めて痛感したことでした。

ところで私たち10期生は高知女子大学を卒業して昨年50年の節目を迎えました。同期の者8名が桂浜に集まり、十六夜の月と黒潮の潮風を満喫し、これを機に毎年あつまることになり、さっそく今年の秋には奈良のクラスメイトのお世話で奈良観光、正倉院展開催中の見学や飛鳥遺跡巡りなどをすることになりました。仕事に制約されず時間に余裕がある年齢を楽しみたいと思っています。

さて高知県立大学にしらさぎ会という同窓会があり、さらに看護学部同窓会がある二重構造についてもう一度考えてみました。多分、昭和27年日本で始めて学校教育法による大学として、高知女子大学に看護学科が増設された意義を大事に受け継ぎたいという卒業生たちの強い願いがあり、学部の方も他大学の先例を参考に協力体制を願ったのではないのでしょうか。医師養成教育は大学以外ではおこなわれていない一方、看護師養成は今日でさえ大学・短大の占める割合は23%で、残り77%が職業教育として実施されています。「大学は、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」に比し、専修学校教育の目的は「教養の向上を図り、職業又は實際生活に必要な能力を育成する」ことが学校教育法124条で定められています。専修学校から素晴らしい知識・技術・人間性をもった看護師が多く排出され、現場の看護を支えていることを認めながら、大卒ナースの力量・創造性に負うところが多く、看護界全体のレベルアップ・患者さんのQOLを発展させていく観点から母校を支援していきたいと思っています。40回目を迎えた伝統ある高知女子大学看護学会で、業績を積み全国に発信してほしいと願っています。1年に1回、2年に1回でも母校に帰り、若い方は大いに活用し、年長組は「看護研究の今」から発信される実践と知の刺激を受け、卒業生の品格を保とうではありませんか。まだまだ健康・人間・看護・環境に役立つアイデアをいただけたらと思います。



### 主な内容

- ① 同窓会会長ごあいさつ
- ② 同窓会総会報告
- ③ 懇親会
- ④ 同窓会・懇親会に参加して
- ⑤ 温故知新 その5
- ⑥ 第40回 高知女子大学看護学会報告
- ⑦ 高知県立大学でご指導いただいた先生からのメッセージ
- ⑧ フレッシュな卒業生からの便り
- ⑨ 高知医療センターと大学との包括連携事業
- ⑩ 看護学部・看護学研究科の活動



# 平成26年度 同窓会総会報告

平成26年度 高知県立大学看護学部同窓会総会が、7月12日(土)に開催されました。本年度の総会は、高知城の西に位置する城西館を会場として開催され、県内外から70名の参加のもとに行われました。

## 同窓会長あいさつ

開会にあたり、梶原和歌同窓会長よりごあいさつがあり、同窓会として今後さらに在学生、卒業生の教育・研究支援や相互に学び合いながらネットワークづくりを行っていきたくと話されました。

## 議 事

議事の進行にあたって、議長に岩貞香氏(27期生)を選出し、次第に則って議事が審議されました。

まず最初に、庶務担当の森下利子氏より平成25年度同窓会活動報告がされ、会計担当の槇本香氏より、平成25年度決算報告があり、賛成多数で承認されました。

引き続き、平成26年度活動計画および役員について、平成26年度予算について提案があり、いずれも賛成多数で承認されました。

高知女子大学看護学会支援費については、同窓会事業として位置づけ、継続して支援していくことが承認されました。

## 平成26年度活動計画

1. 会議
  - 1) 総会の開催
  - 2) 役員会の開催
2. 事業
  - 1) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)  
日時:平成26年7月12日(土)  
テーマ「実践に活かすナラティブ・アプローチ」  
講師:教授 遠藤淑美先生  
(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)
  - 2) 会報発行: 第9号、第10号発行
  - 3) 学生災害ボランティア活動への支援
  - 4) 高知女子大学看護学会への活動支援
  - 5) 同窓生への活動支援

## 学部長あいさつ

中野綾美看護学部長より、男女共学となり学舎が活気にあふれていること、平成26年度から大学院看護学研究科が、看護学専攻(博士前期課程・博士後期課程)、共同災害看護学専攻(博士課程)の2専攻3課程になり、充実したことなど大学の近況が報告され、大学の発展に伴い、益々のネットワークの強化が期待されることを述べられました。

## 会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議長選出
4. 議事
  - 1) 報告事項
    - (1) 平成25年度活動報告
    - (2) 平成25年度決算報告
    - (3) 平成25年度会計監査報告
  - 2) 審議事項
    - (1) 平成26年度活動計画案
    - (2) 平成26年度予算案
    - (3) 平成25・26年度役員について
5. 看護学部長あいさつ
6. 閉会

## 平成25年度活動報告

1. 会議
  - 1) 総会の開催: 平成25年7月20日(土)
  - 2) 役員会の開催: 4回開催
2. 事業
  - 1) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)  
講演 テーマ「ナラティブ・アプローチの可能性」  
講師: 田中美恵子先生(東京女子医科大学教授)
  - 2) 会報発行: 第7号・第8号
  - 3) 学生災害ボランティアへの支援
  - 4) 高知女子大学看護学会への活動支援
  - 5) ホームページの充実



総会における同窓会役員

同窓会役員名簿(平成25・26年度)



役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌	10期生	近森病院看護部
副会長	野嶋佐由美* <sup>1</sup>	20期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美* <sup>2</sup>	27期生	高知県立大学看護学部
書記	中西純子	博士1期生	愛媛県立医療技術大学
	池添志乃	34期生,修士2期生 博士1期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生	高知県立大学看護学部
	槇本 香	51期生,修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	山本雅子	23期生	健康政策部健康長寿政策課
	久保田加代子	25期生	高知医療センター看護局
庶務	角谷広子	25期生,修士5期生	芸西病院看護部
	森下利子	19期生	高知県立大学看護学部
	川本美香* <sup>3</sup>	修士13期生	高知女子大学看護学会

\*<sup>1</sup>:看護学会会長  
\*<sup>2</sup>:看護学部長  
\*<sup>3</sup>:看護学会役員  
は当て職とする

平成25年度 会計報告

平成26年度 予算案

○ 収入の部 (平成25年4月1日から平成26年3月31日)

費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	8,313,380	8,313,380	0	平成25年度在校生(学部、大学院)分の終身会費を含む
平成25年度会費	1,500,000	1,500,000	0	学部生 81人×15,000円 修士課程 16人×15,000円 博士課程 3人×15,000円
寄付金	250,000	186,000	△64,000	23名
利息	1,000	855	△145	
収入合計	10,064,380	10,000,235	△64,145	

○ 収入の部(平成26年4月1日から平成27年3月31日)

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	8,223,367	平成26年度在学学生終身会費含む
平成26年度会費	1,530,000	平成26年度学部、大学院入学生102名分
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
利息	1,000	利息
収入合計	9,954,367	

○ 支出の部

費目	予算額	決算額	差引	備考	
会議費	20,000	15,000	5,000	役員会等	
事業費	同窓会会報発行費	400,000	400,000	0	会報発行2回
	高知女子大学看護学会共催事業費	130,000	130,000	0	第39回高知女子大学看護学会講演会講師旅費・宿泊費・謝金等
	高知女子大学看護学会支援費	500,000	500,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会運営費	80,000	80,000	0	名誉会員認定者旅費
		30,000	30,000	0	総会会場費
	親睦・交流会運営費	30,000	30,000	0	謝金
	学生支援費	100,000	100,000	0	学生災害ボランティア活動費(交通費等)
事務費	通信費	300,000	356,430	△5,6430	郵送費、切手、はがき代等
	印刷費	70,000	39,600	30,400	封筒印刷等
	消耗品費	50,000	8,537	41,463	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール
	報償費	60,000	75,585	△15,585	アルバイト料、各種手数料等
予備費	8,294,380	11,716	8,282,664	学部卒業生表彰	
支出合計	10,064,380	1,776,868	8,287,512		

○ 支出の部

費目	予算額	備考	
会議費	20,000	役員会等	
事業費	同窓会会報発行費	400,000	会報発行2回
	高知女子大学看護学会支援費	500,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会・懇親会運営費	40,000	運営・謝品等
	学生支援費	100,000	学生災害ボランティア活動費(交通費等)
	同窓生活動支援費	300,000	1件あたり上限10万円
	通信費	370,000	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費等
	印刷費	70,000	封筒印刷等
事務費	消耗品費	50,000	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール等
	報償費	80,000	会報発送作業などのアルバイト料、各種手数料等
	予備費	8,024,367	
支出合計	9,954,367		

平成25年度 決算残高 収入合計 ￥10,000,235  
支出合計 ￥1,776,868  
差引残高総計 ￥8,223,367

山本雅子 (印)  
久保田加代子 (印)

平成25年度決算報告について  
監査を行い、以上相違ありません。

# 懇親会



山崎智子先生の  
乾杯のごあいさつ



南裕子学長先生  
のごあいさつ



近況報告をして  
いただきました



昨年度まで本学  
に勤務されていた  
升田茂章先生

本学学部・大学院修  
了生の吉田亜紀子さん





近森病院に勤務する卒業生メンバー  
による出し物  
『セーラー服を脱がさないで』



練習を重ね、大いに場を  
盛り上げてくれたみなさん  
へ感謝の品を渡しています

会場のみならず  
一体になって踊り  
ました！



笑顔いっぱいの  
懇親会でした



恒例となった山田先生の一本締め  
で宴はお開きとなりました



## 同窓会・懇親会に参加して



### 山崎マリさん(学部20期生) 近森病院



同窓会が役員の方達の企画で創立140周年の城西館にて楽しく繰り広げられました。近森病院の若いスタッフのリードによるオニャン子クラブには「若者があんなに張り切ってやっているのにおばさま達も張り切りました。多くの若い同窓生の参加に繋がってうれしいことでした。

翌朝のEテレ「心の時代」で「先に行く者は後輩を導き、後に行く者は先輩を訪ねる」との宗教家の言葉を偶然に聞き、まさしく我々の同窓会の真髄だと思いました。又看護の看は手で触れて看るといふことで、死の不安と苦しみの中にある患者(ひと)への看取りの尊さを話されていました。看護学部の卒業生が、世界で国内で大活躍されているのは同窓生の誇りです。大先輩で恩師の南裕子先生は、当大学の学長、同級生の野嶋佐由美さんは副学長。私が看護師になったのは梶原和歌さんの精神科看護師の姿に魅了され、遅ればせながらの出発でした。今も仕事に、外国旅行にと一緒にさせてもらっています。臨床一途の私は患者様から大切な事を学ばせてもらっています。

「妻の名を忘れし人を抱き起す ナースのわれに気遣いみせる」、「心臓の術後の背中に蒸したタオル 生き返ったと患者のひと声」臨床である日の短歌です。84歳の山崎智子先生のお話を拝聴し、又今日の同窓会に参加して、後期高齢世代を高貴高齢者でありたいと思いました。

### 岡本真知子さん(学部22期生) 細木ユニティ病院 看護部長



7月12日(土)同窓会総会では、少し遅れてしまい、そと後ろから入って総会に参加しました。こんなところは学生の頃と変わらないなと思いつつ。

懇親会が始まると、先生方や先輩の皆様のお話を伺い、心は学生時代に戻っていました。私たち22期生は、和井先生の栄養学の時間には「先生、今日は野外授業にしましょう」と言って、高知城でちゃっかりアイスクリンをおごっていただいたり、卒論の面接では喫茶ムトーでコーヒーをご馳走になったりと、よく先生方におごっていただいたものでした。その時の和井先生、笹原先生の優しいお顔は貴重な思い出です。城西館の美味しいご馳走をいただきながら、南学長、山崎智子先生がご馳走してくださった手料理の思い出も蘇り、懇親会で皆様にご披露しました。

今回、後輩の皆様がたくさん参加されていて、高知県立大学の明るい前途を感じましたが、同期生がいなかったのが少し寂しかったです。この次はみんなで逢いましょう！

### 稲田久美子さん(博士3期生) 四国大学教授



私は、健康生活科学研究科3期生で、高知女子大学で看護学博士号をいただいて、今年で9年目になります。博士号修得後に大学教員になりましたので、教員としても9年目を迎えていることになります。振り返るとあつという間で、ようやく、研究者としても教員としても立ち上がることができるようになったのかなあという思いであります。高知に通って学んでいた3年間は、今の私をつくってくれているように思います。

私は、教員になる前に、18年間、病院で働いておりましたが、「看護師としての私」を臨床に育ててもらったという思いが強く、大学教員になった後も、ほんの少しでも臨床に恩返しができるかと思いつけてきました。恩返しができるのか、鬱陶しがられているのか、わからないのですが、高知県立大学の先生方の「臨床」との繋がりを大切にする姿勢、「臨床」から離れない研究の姿勢、「臨床」に巣立った学生達を大切に見守る姿勢が、今の私を後押ししてくれているように思います。

この卒業生であることを心から誇りに思い、いつまでもご縁があることを祈って、同窓会・懇親会に参加しての一文にさせていただきます。

### 矢野智恵さん(学部38期生 修士1期生) 高知学園短期大学学科長



今年の同窓会・懇親会は昨年とは趣がぐと変わり、城西館で美味しい和食に舌鼓を打ちました。同期生の参加が少なく、お世話になった諸先生方、様々な場でご活躍されている諸先輩方などのお顔をお見受けし、若干緊張しておりました。しかし、そこは看護学部です。脈々と受け継がれるスタンツ魂のもと、「セラー服を脱がさないで」の軽快な音楽と共に始まった実技を伴う健康教育(!?)は、会場を一つにまとめ、一気に学生時代に戻ったような楽しい時間でした。

現在、私は看護基礎教育に携わっています。教育の立場に身を置くことで、私たちは一人ひとりがいかに大切に教育されてきたかということ、そして、自分が受けてきた教育の価値というものをしみじみと実感しています。そして、同窓生ということだけで親近感を感じ、安心感をもって仕事でもつながることのできる財産をもたらしてくれた母校に深く感謝したいと思います。最後になりましたが、母校のますますの発展を祈念いたします。

## 温故知新 その5



高等看護學講座 (株式會社醫學書院)1952年発行 全20巻

アメリカ民謡、作詞者不明

今回の高等看護學講座は『小児科學・子供の遊ばせ方』の「子供の遊ばせ方」を少しご紹介いたします。

この教科書では、小児科の疾患について215頁にわたって記述後、約60頁で子どもの遊ばせ方を説明し、章の冒頭では、子どもの成長発達のために、いかに遊びが重要であるかを説いています。

その中の【歌遊び】から懐かしい歌を紹介します。※文献引用につきましては、医学書院の方に承諾をいただいております  
右上の図のような、音階と歌詞を示した楽譜の下に遊ばせ方が掲載されています。

「太郎さんの赤ちゃんの振付

太郎さんのー(太郎さんは日本の男性の代表名詞です。子供が聞いて百姓を連想すれば、豆絞りの手ぬぐいを頭からかぶる動作を、驛長や郵便配達夫のような官帽をかぶる職業を名指したら、帽子のつばをもってかぶる動作をする。)赤ちゃんがー(両手で赤坊を抱く動作)風邪ひいー(両手を右斜上から左脇下に流す)たー(拍手1回)とてもあわてて以下ー(拍手7回)

この歌は4回歌うのですが、1回目は全部振り付けしながら歌い、2回目は“太郎さんの”の部は歌わないで動作だけして後は1回目と同様、3回目は“太郎さんの赤ちゃんが”まで動作だけ、4回目は“太郎さん……風邪ひい”まで動作だけで“た”の時、歌と拍手。途中で間違った人は後で隠し藝をするようにすれば面白い」

なぜ、風邪で湿布なのか？理由はこの曲のルーツにあるようです。元々の曲はアメリカ民謡(南北戦争時の北軍讃歌:リパブリック讃歌)で、それが「ジョン・ブラウンの亡骸」という歌詞をつけられて流行し、さらにそれが変化して「ジョン・ブラウンの赤ちゃん」という替え歌になり、やがて日本で歌われるようになりました。

「ジョン・ブラウンの亡骸」John Brown's body lies a-mouldering in the ground × 3回、His soul is marching on.

(訳:ジョン・ブラウンの亡骸はお墓の中。彼の魂は歩み続ける)

「ジョン・ブラウンの赤ちゃん」John Brown's baby has a cold upon its chest × 3回、And they rubbed it with camphorated oil. (訳:ジョン・ブラウンの赤ちゃんが風邪ひいた。樟脳油を塗った。)

樟脳油(カンフル油)は、血行促進、消炎・鎮痛作用、清涼感をあたえる作用などがあるため、主に鎮痙剤、湿布薬など外用医薬品の成分として使用されるもの(メントールもこの一種)で、アメリカの歌では、風邪をひいたときに前胸部に塗ることで呼吸が楽になる「ヴィッ〇ス・ヴェポラッ〇」のような塗り薬を示していると考えられます。ただ、当時の日本の風邪への対処方法としてはあまり馴染みがないために、“湿布した”になったのだと思われます。

この歌のすごいところは、「権兵衛さんの赤ちゃん」のような似た歌詞が存在するだけでなく、「おたまじゃくしは蛙の子」「おはぎがお嫁に行くときは」といったいろんな替え歌で歌われているところかもしれません。

教科書やその他の古い看護の文献、あるいは看護の雑誌等をお持ちの方で、寄贈してもいいとおっしゃる方がいらっしゃったら、是非下記までご連絡・ご送付【連絡後、送料受け取り人払い】下さいませようお願い申し上げます。

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部同窓会 088-847-8718 (担当:川上理子)

## 第40回 高知女子大学 看護学会報告

平成26年7月12日(土)、昨年に引き続き、『看護を拓くナラティブ・アプローチ』をテーマに、高知女子大学看護学会が開催されました。当日は、昨年の参加者数を上回る221名のみなさまの参加をえて、活気ある学術集会となりました。

### 講演

午前中は、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授遠藤淑美先生に「実践に活かすナラティブ・アプローチ」というテーマでご講演いただきました。

遠藤先生ご自身の体験をふまえ語られた、『ナラティブが語る者と聴く者の間に現実を創り、その現実にはナラティブによって書き換えられる』という現象は、多くの方に振り返りや気づきをもたらしたようです。



遠藤淑美先生

ご参加いただいた皆さまからは、「語るということを意識的に行うことで、臨床で看護師の育成をしていくときに看護師が自己に気づくことができるのかもしれない。自分自身の気づきを得られた」、「語る事が看護に必要であること、本質であることが再認識でき迷いが少しはれた」、「看護師のもつ本来の技能を磨く必要があると思った」、「教員の立場で学生とかかわるときも参考になる話でした。学生に対して‘こんな看護師になってほしい’とか‘この子らしく育てほしい’という思いを大切に学生自身の語りを引き出せるような問いかけのできる教員でありたいと思った」などのご感想をいただきました。

### ワークショップ

午後には、「ナラティブ・アプローチを活用したシミュレーションデザイン」、「現任教育に活かすナラティブ・アプローチ」、「慢性の病いの語りの意味と可能性を探る」、「ナラティブを引き出す聴く技術」、「研究：語りを分析する」、「保健活動の伝承」「病院と地域をつなぐ ～今を語り合う」の7つのワークショップにて、参加者がナラティブ・アプローチを用いた実践や研究を振り返り、今後の展開について語り合う機会をもちました。



各ワークショップには、20人前後の方が集まり、それぞれのテーマで、あついディスカッションが展開されました。

参加してくださった皆さまからは、「刺激になった」、「わかりやすく実践的であった。着実に目の前のことから始めていきたい」、「自分のアンテナに触れた語りのみ分析していたのではいけないと感じた。共に語りを構成することは難しいです」、「ナラティブから人材育成まで深い語り合いができた」、「連携・協働の真の意味が伝えられる活発な意見交換ができた」などのご感想をいただきました。



## 総会

大学カフェテリアで、ランチ形式で行われた総会には、61名の学会員に参加いただきました。35期生川上理子氏、博士7期生越智百枝氏が議長として選出され、平成25年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、承認されました。続いて、審議事項として、奨学生の選考、平成26年度事業計画案、予算案などについて話し合われ、こちらも承認されました。



総会（本学カフェテリアにて）

## 高知県立大学でご指導いただいた先生からのメッセージ

宮武陽子先生は、平成20年4月に高知女子大学看護学部 慢性期看護学領域の教授として赴任され、平成26年3月末日をもって、定年退職をされました。宮武先生は、平成23年に大学の法人化に伴い、高知県立大学と校名変更されたのと同時に、全学教務部長として活躍され、高知県立大学より名誉教授の称号を授与されておられます。宮武先生のお着物姿のお写真は、退職記念パーティの折、撮られたものです。

### 宮武陽子先生（高知県立大学名誉教授）

私は高知女子大学の誕生した1949年に生まれ、香川県看護専門学校で基礎教育を受けた後、公衆衛生看護助産学科に進み、昭和42年に看護師として虎の門病院に就職しました。そして、平成26年3月に高知県立大学で定年を迎え、約43年間の看護職者としてのキャリアにピリオドを打ちました。

臨床看護師として7年、看護教員として36年余りの長い道のりでしたが、思い返しますと私の看護の原点は、まだまだ看護学として確立していなかった時代の基礎看護教育での経験だったように思います。臨床実習現場で、医師の診療技術の補助が中心の看護師の役割に疑問を感じ、看護とは何か、どうすることが看護・ケアになるのか、自問自答する日々でした。学生としての知識も技術も乏しく、目の前で愛する家族と離れて入院し、病いの進展に一喜一憂している難病の母親、経済的には豊かであっても生きる希望を失い、リハビリに向かい合えないホーム入居中の高齢の婦人、肝硬変末期のため予後が短いと知りつつもお互いを思いやりながら療養生活を送る御夫婦、そこで受けた病むことがもたらす悲喜こもごもの鮮烈な衝撃は、今も私の中に息づき、看護・ケアを考える原動力となっています。

虎の門病院では、基本的な生活ケアを思う存分提供することができ、先輩から患者中心の看護について教わりました。今と比べるとケアのために時間を費やすことができ、恵まれていたと思います。少ない臨床経験を基盤に看護教員になり、専門学校、短期大学、そして、大学教員として、看護教育制度の大きな歴史的転換の中で、所属が変わるたびに果たすべき役割・社会的要請に自分の能力の限界と戦い、続けてきたと思います。苦しいことも多くありましたが、看護教員にならなければ分からなかった貴重な発見が数多くありました。臨床現場の状況にどっぷりつかっていないからこそ見える病いや患者の真実、看護の本質に気づくことができたと思いますし、それを伝え続けていく重要な役割が教育にはあると確信しました。そして、キャリアの最終段階では6年間という短い間でしたが、高知県立大学での濃密な経験をさせていただきました。私が香川大学から本学に移った時は、女子大学から法人化に移行し、キャンパスの移転、学生定員の80人増員、さらに男女共学化へと大きくその方向を転換する時でした。教務委員長としてのカリキュラム改正や教務部長として大学改革の一端を担い、重責におののくこともありましたが、看護への志の高い仲間や学生と触れ合うことができました。日本の看護界を先導する高知県立大学看護学部が新たな姿に変革していく歴史的な瞬間に立ち合えたことはとても幸せなことでした。どのような環境の変化の中にあっても看護の本質を探究し続けるぶれない組織文化は、高知県立大学ならではのものだと思います。今後も看護学部ならではの組織文化を意識し、大切にしつつ、ますます発展して下さることを祈念しています。



# フレッシュな卒業生からの便り

## 「看護師として働いて」

高知大学医学部附属病院 池上示帆(60期生)



臨床の現場に立って早4カ月が経ちました。私の勤めている部署は、様々な年齢層、そして様々な疾患をもつ患者さんがおられ、そんな患者さんを目の前にするたびに、自分の知識・技術不足や課題を痛感しています。また学生時代には患者さんとゆっくり関わる時間が持てましたが、臨床ではなかなか時間が作れず、どうやって関係性を作ろうか悩むことも多くあります。しかし、先輩方が毎日フォローをしてくださったり、熱心にご指導して下さるおかげで、4カ月経った今、少しずつ患者さんに対してできることも増えてきました。そして、関わりのなかで見られる患者さんの笑顔や、「ありがとう」という感謝の言葉に励まされながら病棟での日々を送っています。まだまだ知識や技術は不足していますし、課題も多いですが、これからもこの病棟でたくさんの経験を積み、患者さんを笑顔にできる看護師を目指して、日々精進していきたいと思っております。

## 「助産師として働いて」

杏林大学病院 岩田明日香(59期生)



生まれ育った高知を離れ、杏林大学病院に助産師として就職し、一年半が経ちました。新たな環境にも慣れ、毎日忙しくも、充実した生活を送っています。2年目になり、分娩介助や母体搬送された患者の救急看護、不妊治療の処置介助、両親学級の運営などに関わる機会も多くなってきました。当院は、プライマリー助産師として、患者を長期的に受け持ち、分娩介助や産後の育児支援まで継続的に関わることができます。時間をかけ、信頼関係を築き、患者や家族と様々な体験を共有しながらケアを行うことは、楽しく、達成感もあります。また、退院した患者が病棟に会いに来てくださると、自身の行ったケアが家族の一助となったのだと実感できます。

しかし、日々の助産看護の中では、患者や家族との関わりの中で、迷いが生じたり、困難な場面も多く存在します。そんな時、浮かんでくるのは、先生方の「どんな患者さんでどういう状況なの？それをやる根拠は？」という言葉です。高知県立大学で学んだ、知識や技術、論理的思考過程は、今の「患者や家族の声に耳を傾け、丁寧に接する」という患者への関わりに通じています。まだまだ、勉強不足な面もありますが、現在は、院内の勉強会や、院外の講習会に参加し、日々のケアに繋げています。今後は、より視野を広げ、ハイリスク妊婦や胎児疾患があり、長期的にサポートが必要な母児、家族に対するケアの幅を広げていきたいと考えています。

## 「保健師として働きはじめて」

高知市保健センター 刈谷美乃理(60期生)



私はもともと、疾病等の予防活動に関心がありました。地域で直接住民と関わる保健師の仕事は大変魅力的で、住民主体の健康なまちづくりに関わりたいという思いから、保健師を目指しました。現在は母子保健に従事しています。訪問や育児相談・健診などの事業を通して、子どもや保護者の方々と関わる中で、多くの学びがあります。個別ケースへの対応では、現在目に見える状況だけではなく、これまでの生活のしかたや価値観などもふまえ、将来を見据えた支援が必要です。これには個人としての判断・対応ではなく、他機関との連携が重要であると実感しています。

私の目標は、対象に寄り添い理解する努力をするという基本を大切に、住民から信頼される保健師になることです。長期・継続的な支援としては、先輩保健師の技や助言から、専門職としての判断や解決策の幅を広げていきたいです。

母子保健を切り口に、家族や地域など広い視野で対象を理解し、しっかりと保健活動の基盤づくりをしていきたいと思っております。

## 「養護教諭として働いて・・・今の実践活動」

高知市立鴨田小学校

下村梨沙(60期生)



私の勤務している小学校は大規模校で、養護教諭が複数配置されています。子どもたちの人数が多い分、休み時間には様々な健康課題を抱えた子どもたちが数多く来室します。養護教諭が二人いても、短い休み時間の間に全ての子どもたちに対応することはできず、気になる子どもはいるけれど、十分に時間をかけて向き合いたいという思いをもって養護教諭になった私にとって、本当にこれで良いのかと悩むこともありましたが、保健室での温かい関わりを求めて来室する子どもたちが毎日たくさんいることから、一度の関わりで子どもの全てを理解しようと焦らなくてもいいのではないかなと思えるようになりました。

日々の小さな関わりを大切に、それを継続的に積み重ねていくことによって少しずつ子どもたちとの信頼関係を築きながら、児童理解を深めていくことの重要性を四ヶ月経った今、強く感じています。

## オープンキャンパスが開催されました



恒例のオープンキャンパス(8月3日)が、高知県下に大雨洪水警報が発令され、市内全域に避難勧告が出されたため途中で中止となり、8月31日(日)に再度開催されました。振替の開催にもかかわらず、当日は県内外から多くの高校生とその保護者、教員の方々が参加してくださり、盛況のもとに終えることができました。



4回生による心肺蘇生のデモンストレーションが行われました。

小児・母性看護コーナーでは、赤ちゃんの沐浴を体験しました。



看護学部全体説明会の様子

# 高知医療センターと大学との包括連携事業

高知医療センター



高知県立大学



高知医療センター看護局と高知県立大学看護学部の連携は、平成19年3月23日にスタートしました。この日、両施設の間で看護連携型ユニフィケーション基本協定が締結され、“こころをひとつにして手をつなぎ、よりよい看護の実現”という目標に向かって取り組んでいく試みが始まりました。当時は全国的にも珍しい取り組みとして注目を集めました。

その後、平成22年11月17日には、“看護”という枠を越えて、両機関が協力して教育や研究を充実させ、健康長寿社会の実現に向けて専門職者の力量アップを図り、高知県内の看護・福祉・栄養分野に係る人材を養成することを目的に、高知医療センターと大学との間で包括的連携協定を締結し、連携を強化しました。現在は、全体を統括する包括的連携協議会の下に、健康長寿・地域医療連携部会、看護・社会福祉連携部会、健康栄養連携部会、災害対策連携部会の4部会を設置し、幅広い協働事業を行っています。

## 看護連携部会の活動紹介

### 基礎教育における相互協力

#### ■医療安全・感染管理の講義・演習、BLS・挿管研修、ナースィング・カフェ

学生の実践的知識獲得へのサポートとして、専門的知識や技術をもつ看護師による講義や演習を行っています。学生は、初めての臨床実習直前の2回生の8月に、医療安全管理センターの看護科長による医療安全に関する講義を、領域実習に出る直前の3回生の10月には、感染管理認定看護師による感染管理に関する講義と演習を受け、臨床現場での実践的な知識や技術を身につけた上で実習に臨んでいます。また、4回生の卒業直前には、BLS(一次救命処置)と気管挿管の準備と介助に関する実技研修があり、



急変時の対応を学び自信をつけて、看護実践の場に巣立つ学生もいます。

今年度からは、高知医療センターで毎月1回開催されている看護師のための語り場「ナースィング・カフェ」を学生にもオープンにし、学生が、先輩看護師の看護実践から看護を学ぶことができる機会を設けています。



### ■小児看護の実践・教育・研究の相互協力

平成25年度・26年度は、看護実践能力の向上を目指して、シミュレーション教育に力を入れて活動をしています。高機能シミュレーターを用いた子どもの急変時の対応や看護について、定期的に勉強会を開催し、看護師・大学院生・教員が共に学び合う場となっています。今後は、アクションリサーチに発展させたいと考えています。

赤ちゃん同窓会は、NICUを退院した子どもとその家族を支援する取り組みです。毎年1回NICU・GCUとの共催で開催し、NICUを退院した子どもとその家族が集い、家族が体験を語ったり、家族と医療者との交流、講演会やお楽しみイベントなどを行っています。学生は、地域で生活する子どもや家族への継続した支援について学んでいます。



また、学部の小児看護実習や卒論、大学院の小児看護専門看護師コースの実習や修士論文、共同研究を通して、子どもや家族を支える看護について、共に学んでいます。

小児看護の魅力語る会は、今年初めて開催しました。小児病棟、NICU・GCUの看護師が、小児看護の実践、やりがいを感じる体験を学生に語り、学生は、先輩看護師から、小児看護の魅力や知識に裏付けられた実践力を学ぶ貴重な体験となりました。

### 継続教育における相互協力

#### ■キャリアサポート

看護師のキャリアサポートとして、教員による学士課程卒業生の看護ジェネラリストとしての能力向上への支援や、より専門的な能力の修得を目指す看護師の大学院進学への支援、大学院修了者のスペシャリストとしての能力向上を目指した支援などを行っています。

昨年度は4年目までの看護師を対象に「なりたい自分になるために」をテーマに研修会を行いました。

### 共同研究

#### ■ドクターヘリの運用に関する教育プログラム開発

ドクターヘリに乗務する看護師はフライトナースと呼ばれています。出勤先では機材が限られていることに加え、機内では通常の言葉によるコミュニケーションが取りにくいという特殊な環境で看護を行います。また多くの場合、ドクターヘリでは医師1名と看護師1名で業務に当たるため、「頼る人がいない」という状況下でもあります。高知医療センターとの共同研究では、このような状況を踏まえて、モデル人形等を用いた地上でのシミュレーション研修を計画し、それに必要な機材、シナリオ、評価表などの開発を行いました。

### 教員によるコンサルテーション

#### ■家族看護学領域

ここ数年、家族看護学領域の教員と7Bフロアの看護師が共に、家族看護に関する学習会を年3~4回行ってきました。最初は家族看護の基本を学ぶところから始まり、徐々に臨床で困っていることや関心があることに焦点を当て、学びを深めてきました。ここ2年は、近年増加している壮年期のがん患者さんのターミナル期における家族看護をメインテーマに、講義、事例検討、ロールプレイなど様々な方法を用いて検討を重ねています。

7Bフロアでは家族看護のチームが生まれ、教員との協働で学習会の企画・運営を行うとともに、学習会の成果は院内発表会で報告されました。教員にとっても学習会は、臨床の生き生きとした看護実践に触れる貴重な機会となっています。

## ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。誠にありがとうございました。(敬称略 平成26年8月31日現在)

中島 紀恵子(4期) 福岡 恵美子(5期) 岡田 溪子(7期) 陳 正子(12期)  
 岡谷 恵子(19期) 山田 薫(26期) あしの会(高知県内の保健師有志)  
 匿名希望(1名)

## 看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々と学びを共有する場として看護相談室を開催しています。  
 今年度の予定が決定しています。  
 ぜひ、ご参加ください。  
 高知県立大学のホームページにも詳細が記載されていますので、ご覧下さい。



## 高知県立大学 看護学部

### 看護相談室

2014

看護相談室は、11の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。



<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>  
 日程の確認にはホームページをご覧ください

<b>家族看護学</b> ケア検討会 修了生の会	■ 長戸研究室 ☎088-847-8708 6/19(木),11/18(火)18:30~20:30 5/31(土),7/12(土),10/18(土),2/7(土)
<b>精神看護学</b> ケア検討会 リカレント教育	■ 畦地研究室 ☎088-847-8717 6/19(木),9/18(木),12/18(木),3月頃19:00~21:00 *専門看護師の方対象 5/24(土) 13:30~16:00 *日本精神科看護技術協会高知県支部との共催
<b>がん看護学</b> 質の高いがん看護実践を検討する会	■ 藤田研究室 ☎088-847-8704 6/28(土),10/18(土),2/14(土)
<b>クリティカルケア看護学</b> ケア検討会 リカレント教育	■ 森下(利)研究室 ☎088-847-8702 6/28(土),10/4(土)13:30~ 2月頃予定
<b>慢性看護学</b> ケア検討会 リカレント教育	■ 内田研究室 ☎088-847-8720 9月上旬、11月上旬の2回 日程未定
<b>小児看護学</b> 修了生の会	■ 中野研究室 ☎088-847-8710 7/20(日):東京 2月頃:高知
<b>母性・助産看護学</b> ケア検討会 リカレント教育	■ 松本研究室 ☎088-847-8722 2月上旬予定 3月予定
<b>地域看護学</b> リカレント教育	■ 時長研究室 ☎088-847-8715 1~2年目 7/4(金),12/19(金) 3~4年目 6/13(金),12/18(木)
<b>在宅看護学</b> ケア検討会 交流会	■ 森下(安)研究室 ☎088-847-8709 7/23(水),2/17(火)18:30~ 11月頃予定
<b>老人看護学</b> ケア検討会 リカレント教育	■ 竹崎研究室 ☎088-847-8705 6/10(火),10/14(火)18:30~ 1/24(土)13:30~
<b>看護管理学</b> ケア検討会 リカレント&交流会	■ 山田研究室 ☎088-847-8716 6/27(金),10/3(金),1/23(金)18:30~21:00 2/21(土)18:00~21:00

## 寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。  
 寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。  
 ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



編集後記  
 今年は、全国各地で、これまでに経験したことのない何十年ぶりかという豪雨災害に見舞われ、多くの犠牲者、被災者を出しました。何か大変な事が起こらなければ、なかなかかわが事として考えることができないのが人の常です。改めて、日頃から色々なことを想定し、如何に生活するかということを考えていかなければならないことを気づかされました。また、その一方では、テニスの錦織圭選手のスポーツ史に残る世界的快挙に、久しぶりに日本中が連日大きな興奮と感動を与えられ、熱狂しました。  
 皆様にとつては、どのようなことが、記憶に残ったでしょうか。同窓会報にも是非、近況やご活動等をお寄せいただけると幸いです。  
 (森下・池添)

### 事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部  
 Fax: 088-847-8750

### ホームページアドレス

高知県立大学  
<http://www.u-kochi.ac.jp/>  
 高知県立大学看護学部  
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

